

令和元年度 美術学科FD・SD研修会④

若月先生の「文章表現演習」より、文章表現の指導方法について共有する

日 時：令和元年11月19日（火）10：00～11：30

講 師：ビジネス実務学科 若月 博延

参加者：権田 堀 本山 新井 大谷 和田 大場

欠 席：東田

次年度の授業を改善していくため、授業アンケートの評価が高かったビジネス実務学科 若月・矢澤先生が担当された「文章表現演習」の授業内容について紹介して頂いた。美術学科で一般教養としてプレゼンテーション能力と文章力の強化に重点を置きたいと考えており、その点からも大変興味深く話を伺った。

「文章表現演習」を初年次教育の一環として非常勤講師に依頼していた時代は、漢字の読み書きや一般的な内容で終わってしまい、学科として望んでいたレポートが書ける力や履歴書を書く力が改善されなかった。そこで担当教員が連携し、毎年工夫を重ねて授業を見直し、様々な場面で正しく文章が書けることを到達目標に内容を練り上げ、改善しながら取り組まれていた。

シラバスでは、①作文②要約③リテラシー④レポート⑤小論文と大きく5つのカテゴリーに分かれており、その中で○ルーブリックで評価基準や授業の到達目標を明示○ドリル形式で繰り返し身につけさせる工夫○相互チェックシートでお互いに見せることを意識させて書かせる○学生の興味を引く内容でディベートさせる等、15回かけて体系的に丁寧に積み上げていくよう授業計画されていた。また、アクティブラーニングを効果的に取り入れることで、事前学習や学生の興味を持続させる工夫も随所にみられ、大変参考になった。

内容説明の後には、グループワークの進め方、学生たちが興味を示す内容について、複数教員が同じ授業を同じ時間で担当する同時進行の授業設計について等の質問がされた。

若月先生から授業内容の説明を聞くまでは、授業アンケート評価が高いといってもそこまで違わないのではないかと、とそれほど期待をしていなかったが、綿密な計画と年月をかけて工夫して作り上げてきた内容に大変感銘を受けた。次年度よりカリキュラム変更で文章表現演習はなくなることから、美術学科の学生にもこの内容で文章力を強化させたいという思いもあり、次年度はキャリアセミナーやプレゼンテーション演習などで内容の一部をお借りしたいと考えている。他学科の授業計画、シラバスの作成方法等を共有できて大変勉強になった。

